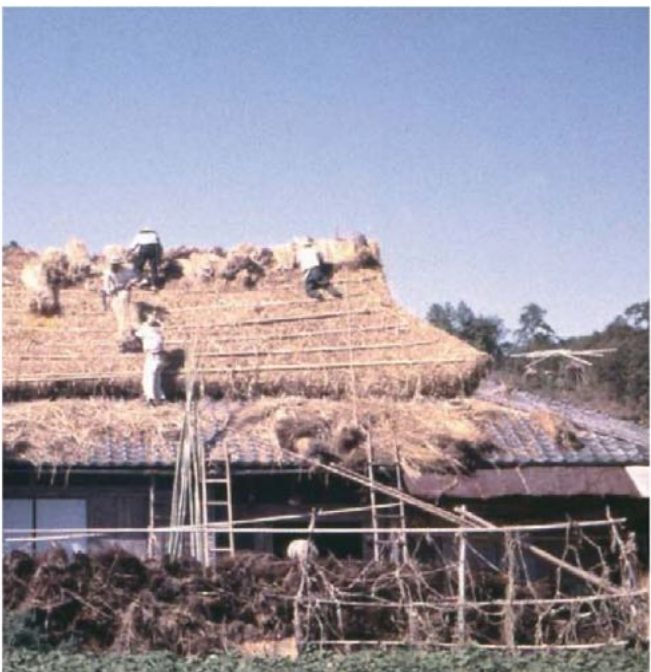


## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山

くずやの葺き替えには麦カラと米ワラが使われました。これらは、農家で育てた米と麦を脱穀した後大切に保存され、いろいろなことに使われました。米ワラは、田に「積みワラ」にして保存されました。くずやの屋根の下敷きのほか、牛や馬の家畜の飼料、また下部の腐りかけたものは田や畑の「くねごえ」として使いました。

「くずや」は、昭和40年代ごろまで見られました。



「屋根の葺き替え」 昭和39年10月2日撮影

## 「くずやの屋根の葺き替え」

「くずや」とは、この地域で草葺きの家を指す言葉です。

屋根の葺き替えをするときには「フキシ」とよばれる村の中でも職人級の人を中心にして、集落の男性が総出で手伝いました。多くの人が、葺き替えの技術を持っていました。



「積みワラ」 昭和37年11月9日撮影